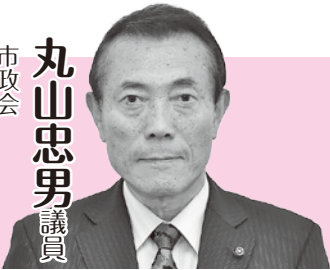


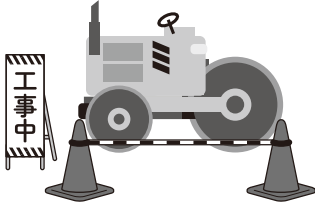
市政会

丸山忠男
議員



○ 市内道路の年間整備計画について ○ 融雪道路の年間計画について

その他の質問
・ 防災対策の観点から



議 ① 市内道路の年間整備計画における現在の進捗状況について伺う。

理 ② 突発的な事案や日々の道路パトロール、90歳を超えるような高齢者や障害を持つ市民からの生活道路に対する要望についてどのように対応しているのか見解を伺う。

理 ① 本年度の当初計画では、舗装工事として29路線で約2kmを、側溝等の改修として約1kmを計画した。

11月末時点で舗装工事は29路線で約1.8kmが施工済みで、年度内には2路線で約0.2kmを施工する予定である。側溝等の改修は約0.8kmが施工済みで、年度内には約0.2kmの工事が完成予定である。

② 突発的な事案について市民から連絡があった場合など

は、担当職員が現地を確認し、口頭記録書を作成して報告する。その際に、緊急度と優先度をA、B、Cの3段階で記入している。その結果に基づき、迅速な対応が必要かどうかを判断している。

また、市民や高齢者から生活道路に対する要望を個別に受けることもあるが、道路は不特定多数の方が利用する施設であるため、個別の事情に応じて対応することが難しい場合もある。しかし、高齢者等が増加していくことも踏まえ、今後も市民の意見や事情をしっかりと聞きながら対応していきたい。

議 融雪道路の年間計画並びに現在の進捗状況について、担当課の見解を伺う。

理 市が管理している融雪道路の総延長は19.4kmで、本年度は勝山地区沢町周辺の旧労働金庫ビルから北へ延びる市道の融雪施設が新たに229m稼働する予定である。

現在、各路線で冬の本格稼働に向けた点検・調整作業を行っており、委託業者が試験運転を行いながら散水ノズルの点検・調整を行っている。

現在、各路線で冬の本格稼働に向けた点検・調整作業を行っており、委託業者が試験運転を行いながら散水ノズルの点検・調整を行っている。

新風会・公明

松本聖司郎
議員



○ 人口減少対策へ向けた市民への意識付けについて

議 過疎化の原因を考えるにあたり、私の見てきた街の状況の例えとして、勝山市は恐竜や自然といった物を柱とした「机」、次世代は熟成を待つ「ワイン」とする。そのワインは飲み頃を迎え、瓶から出てくるが、受け皿であるグラスが足りないため、ワインは大事にしている机にそのままだまげられる。その状況に机は拭かれ、何も乗っていないテーブルの存在価値は観賞用にこそなれ、本来の用途を全うせず、彩り潤うことはない。

私が委員会等で、学校の関連の議題のときにキャリア教育を強く推したのは、その環境に負けず、受け皿に自らなる子が出る可能性を少しでも高め、生産世代の雇用環境の継続に繋げるためである。

意識付けを含む人口減少解消に向けた市長のまちづくり、人づくりへの方針を伺う。

理 第6次総合計画の策定にあたり、市民意見交換会などの場でこれまでに勝山市が取り組んできた政策を説明するとともに、現在の人口構成から今後予想される出生数や人口構成の変化を前提に市民から様々な意見・提案をいただいた。それらを踏まえ、本年4月にスタートした第6次総合計画および第2期地方創生総合戦略では、安全安心な生活環境の整備や地域コミュニティの活性化による市民満足度の向上、多彩な交流によるにぎわいの創出などを一体的に取り組むことで、まちの魅力向上を図ることとした。

少子高齢化による人口減少時代にあつて、地方の市町村は、人口構成や人口規模にあったインフラ整備を進めることが必要と考える。

地域コミュニティの弱体化、公共施設の供給過多など人口減少に起因する様々な社会的課題に1つずつ対応し、市民、行政、各関係機関が一体となって人口構成の変化に即した人づくり、まちづくりに取り組んでいく。

議 10月の大仏イベントは大盛況で、続くなら移住を考える20代、30代の方もいた。次世代の受け皿の1つが作れたと感じている。

こういった「大人が動き、変われば子どもが変わる」という県の方針に沿った施策も、同時進行で考えてほしい。